



教育革新センター

Center for Innovative Teaching and Learning



東京工業大学 教育革新センター (CITL)
<http://www.citl.titech.ac.jp>

〒152-8552 東京都目黒区大岡山2-12-1-W9-212号室
Tel: 03-5734-2993 (MailBox W9-105)
Fax: 03-5734-2994



東京工業大学
Tokyo Institute of Technology

index

CITL

ANNUAL REPORT 2017

03

ごあいさつ 教育革新センター長 松澤 昭

04-05

CITLの概要

06-08

活動実績 2017

09-10

OEDO

11-13

GSA/LPG/DIY

14

Fact Data 2017

15

運営の仕組み



ごあいさつ

本学の教育改革の理念に基づき、教育の質と効率を高めるために教育革新センターが2015年4月に創設され、3年が経ちました。

2016年度までは、新教育体制発足に向け、シラバスの充実に向けた取り組み、「科目設計法」「英語による教授法」を中心とするセミナーの開催、オンライン教育開発室によるMOOCの製作、セミナー室や収録スタジオの整備などを中心に活動を行いました。

2017年度はこれらの活動を継続しながら、GSA(p.11)やLPG(p.12)と称される、新たな学びの手法に関するプログラムの開発を開始しました。時代の変化や本学の状況の変化に合わせてより効果的かつ効率的な学修方法を開発することも当センターの重要な使命です。GSAについては新たな学修方法を身に着けた大学院生アシスタントの認定を行いました。今後、彼らが教員と協働して学部学生の学修支援を行うことが期待されます。

また、教育に関し先進的な取り組みを行っている国内外の有力大学である、九州工業大学、バレンシア工科大学と、教育技術に関する部局間協定を結ぶことができました。これからはこれらの大学との交流を図ることで、より良い学修方法や教育の仕組みなどを導入して活用することが求められます。

一方、FDセミナーに関しては、十分な効果を上げたとは言にくい状況です。セミナー内容、実施時期、周知方法などについて多くの改善が必要です。また教育の質保証の仕組みが自律的に機能するためには更なる取り組みが必要です。センターも全力を上げて取り組みますので、教員の皆様のご支援とご協力をお願いしたいと存じます。

2018年3月



教育革新センター長
松澤 昭

教育革新センター (Center for Innovative Teaching and Learning : CITL) の概要

教育革新センターは、東京工業大学の教育・研究理念と戦略に基づき、教育方法、教育能力開発方法、教育支援方法及び教育の質向上のための教育マネジメント体制の革新及びその継続的实践により、教授力及び教育意識の高い教員並びに学習意欲にあふれ学力及び人間力が高い学生の育成を図り、世界最高の理工系総合大学の実現に資することを目的としています。この目的を達成するため、次の事業に取り組みます。

教育の質保証体制の構築

教育の質向上に資する体制構築を目指します。授業評価アンケートの実施マネジメントをはじめ、学内教育組織で展開される授業科目の質向上、カリキュラム改善に貢献します。加えて、学内の教学データの分析 (Institutional Effectiveness) などを視野に入れた活動を行います。データに基づいた、教育活動の企画・展開・評価・改善へのアクションを起こしていきます。

- 授業評価アンケートの企画・実施
- 授業評価アンケート結果のフィードバック
- カリキュラム評価の企画
- 学生の学修行動分析
- マネジメント体制の構築支援



教育能力の開発及び向上支援

教員・TA (Teaching Assistant) の教育能力向上、職員の大学教育に対する関心向上を目指します。インストラクショナルデザイン等の諸原理に基づいた教員研修及びTA研修、並びに職員研修を行い、本学において展開される多彩な授業科目の効果・効率・魅力の向上に貢献します。



また、新たな教授法であるアクティブ・ラーニング、動画教材を活用する反転授業などの実施支援を行います。

- 教員・職員・TAを対象とした研修の企画・実施
- 英語による教授法の向上支援
- 動画を活用した教授法の向上支援
- 各種ハンドブックの作成
- 授業コンサルティング、学修サポート

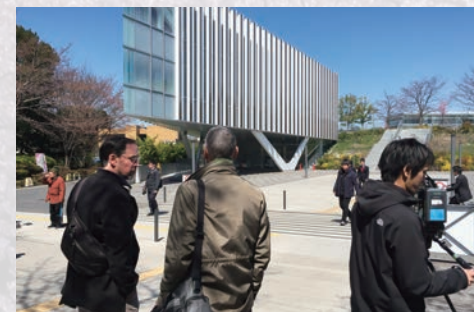


教育学習環境の開発及び教育支援

新たな教授法に対応する教育学習環境の整備と構築を目指します。オープンな学習教材としての MOOC (Massive Open Online Course) 開発を通じて、新たな教育学習環境づくりに貢献します。また、コース開発支援だけでなく、教員個人がオンライン教材を授業で活用することができるような支援も行ないます。

- MOOC (Massive Open Online Course) 開発
- オンライン教材を活用できる環境整備
- 教室環境コンサルティング

オンライン教育を推進するために、オンライン教育開発室 (Online Education Development Office: OEDO) をセンター内に設けています。



教育方法の研究開発及びその普及

教育の質保証体制の構築、教育能力の開発、教育学習環境の開発を支える研究活動を行ないます。各教育組織が主体となって大学における教育を展開することを踏まえ、それら教育活動の推進と革新に貢献します。国内外の同種センター組織等との連携を図り、広く学内外への発信にも努めます。

- 効果的な講義法の開発
- アクティブ・ラーニングの推進
- ICTを活用した効果的な教授・学習法の開発
推進プロジェクト (文部科学省からの支援)
・「教職員と学生ならびに学生間の協働による学びのコミュニティシステムの確立」
(通称:GSA) 平成 28~32 年度
・「学生が自ら進んで学べるプラットフォームの構築による教育改革の更なる推進」
(通称:LPG) 平成 29~33 年度



活動実績 2017

2017

教育革新センター(Center for Innovative Teaching and Learning : CITL)は、2015年4月に発足し、「教育の質保証体制の構築」、「教育能力の開発及び向上支援」、「教育学習環境の開発及び教育支援」、「教育方法の研究開発及びその普及」を主な目的として活動を展開しています。さらにセンター内のオンライン教育開発室(Online Education Development Office : OEDO)ではMOOC(大規模公開オンライン講座)の開発、配信を行っています。ここでは2017年度の主な活動をご紹介します。

教員対象プログラム

「科目設計法」

教育能力開発を目的としたセミナーを開催しています。具体的な内容として、インストラクショナルデザインの諸原理を知り実践への応用を目指す「科目設計法」、アクティブラーニング型授業の方法を身につける「アクティブラーニングで授業を行う技術」をそれぞれ5回開講しました。「科目設計法」は、2015年度より実施しており、新カリキュラムにおける教育の質向上を目的としたもので、2017年度までに400人以上の教員が参加しました。参加者は、事前に学内に配信する動画をういた学習をもとにワークシートを作成します。当日はそのワークシートをもとに、グループワークを中心としたセミナーが



行います。すなわち、反転授業とアクティブラーニング型の授業を実際に体験することも目的の1つになっています。その他にも、クォーター制、科目ナンバリング等、新カリキュラムに対応したシラバス作成を目的とした動画教材を学内に配信しました。さらに2017年度から、新たな試みとしてリベラルアーツ研究教育院日本語教育グループへの「科目設計法」出張セミナーなども展開しました。

「教員向け英語の研修」



2019年度からの大学院科目の全英語化を見据え、英語による授業運営方法の習得をめざす研修を企画、実施しました。アルク社と共同で実用的な授業で用いる英語の習得を目指した「Basic Classroom Englishセミナー」やBritish Councilと共同開発した「シラバスライティング」のほか、「講義とプレゼンテーション」、「発音とGlobal Englishes」、「Academic Teaching Excellence」を開催しました。また「大学教員のための教室英語表現300(中井俊樹編、アルク)」の電子書籍を全教員が利用できるよう



にするなど、英語で授業を行う際の基本的な考え方や準備について知っていただくための機会を全教員向けに提供しています。

「初めて授業を担当する教員のためのセミナー」



初めて授業を担当される教員及び助教を対象としたセミナーを開催しています。2016年度に計7回実施した「新任教員、及び助教のためのセミナー」の内容を引き継いで、セミナーの内容が伝わりやすいように名称変更し、2017年度には計4回の機会を設けました。

本セミナーの目的は、授業の概要(担当することになった授業への着想)をシラバスへまとめていくためのプロセスを体験することです。予め、授業担当の有無とは関係なく、参加者自身が担当授業科目を仮に設定し、その概要を簡潔にワークシートへまとめ、セミナー当日に持参します。セミナーでは、ミニレクチャーや、参加者とのディスカッションを通じて、今まで受講した授業を振り返り、自身の授業の構想や、本学の教育・学生・カリキュラムなど

について理解し、授業設計の基本を習得しながら、ベテラン教員がシラバス作成で辿る過程を疑似体験します。

「動画を活用した授業設計セミナー」

2017年度から新たに加わったセミナーです。授業で講義の時間を減らして演習や実習を充実させたい、欠席者に対して動画を使って対応したい、授業の英語化に向けて講義を動画に録画して活用したいなどのリクエストに応え、後述のT30(Tokyo Tech Teaching Online)プロジェクトにおいて内容を検討したものです。計5回(内、すずかけ台で1回)の受講機会を提供しました。

セミナーの構成は、毎年授業で定期的に行っている講義形式の説明を動画に保存し、学生が予習として授業前に視聴することで授業の時間を演習や実習に充てる、学生の復習のための補助教材として提供するという動画の活用方法、また設計に関する基本的な知識を整理する前半と、参加者が実際に動画を制作してみる後半から成ります。

職員対象プログラム

「学務系職員セミナー」

学務系職員を対象にしたセミナーも始めています。開始初年の2016年度は計5回、2017年度には計2回を実施したところです。

学生と関わる現場では、不測の事態が必ず起こり得ます。想定外の状況ですから、マニュアル対応はできないにもかかわらず、ともするとマニュアルを求めてしまいがちになることについて考え直し、日常の仕事を振り返るのが、セミナーの目的です。



セミナーでは、職場においてチームで仕事を行っていくために大切な対話のスキルを習得しながら、ケースを素材にチームで対応策を検討し、不測の事態や想定外の状況が自身の現場で起きた場合について省察します。

学生対象プログラム

教職員向けの研修に加え、学生を対象としたセミナーも企画、開催しています。2017年度は図書館と共同で、例年開催している「日本語ライティングセミナー」に加えて、2019年度からの大学院授業英語化を見据え、英語による「English for the Classroom Seminar」、「Writing in English Seminar」を開催しました。

アクティブラーニング支援制度

アクティブラーニングの普及と、より効果的で効率的な学習の実現に向けて、

教育手法の変革に挑戦する教員のスタートアップを支援する制度として、平成28年度より開始しました。アクティブラーニングによる講義を新たな実施する、反転授業のための教材開発に挑戦する、講義中の学生との双方向性をもっと高めたい、などに挑戦する教員に対し、スタートアップに必要な資金の一部を支援するものです。2017年度は9件の申請があり、5件を採択しました。今年度はクリッカーの活用や、反転授業のための動画コンテンツ制作、アクティブラーニング実施のためのコミュニケーションツールの購入などが対象となりました。なお、この制度を利用して、実施された新しい取り組みは、グッドプラクティスとして事例を公開する予定です。昨年度にアクティブラーニング支援制度に採択された活動の概要は2017年10月に開催されたCITLシンポジウムにおいてポスター展示され、多くの方々の関心呼びました。

アクティブラーニング支援制度 2017年度に採択された取り組み

取り組み名	申請者	所属
多人数クラスの中で1対1のきめ細かいプログラミング教育を可能にするICTシステムの開発	大上 雅史、樺 惇志、秋山 泰、藤井 敦、島川 昌也	情報理工学院情報工学系
うそ発見器の設計製作とチーム対戦を加えた能動的な演習科目の新設	安岡 康一	工学院電気電子系
PBLによる、サービス創出型のソフトウェア開発実習	森本 千佳子	情報理工学院情報工学系
デザイン思考とハンズオンワークを用いた機械系アクティブラーニング	八木 透	工学院機械系
授業内で学生の能動性・主体性を喚起する取組み	齊藤 滋規	環境・社会理工学院 融合理工学系

活動実績 2017



Tokyo Tech Teaching Online: T30

2017年度からスタートしたプロジェクトです。

教室における講義《情報・知識の蓄積》に力点を置いた従前の授業スタイルから、教室外における動画視聴《情報・知識の蓄積》と教室でのワーク《情報・知識の活用》を統合する新しい授業スタイルへの更新を促進するために、教員が自身で動画作成できる(Do It Yourself: DIY)環境を構築することを目的に始めました。本プロジェクトのコンセプト「TeSuCo(テスコ)」として表現されます。Technology(技術的な側面)、Support(研修と支援)、Copyright(著作権の解決)の3領域を密接に関係させながら、学内利用の促進と普及-Promotion-を戦略的に展開することを目指しています。2017年度には、「動画を活用した授業設計セミナー」を開催しました。

教室環境改善

教室環境のガイドラインを作成しました。インストラクショナルデザイン、学習環境デザインなどの諸分野の知見を組み合わせ、アクティブラーニング

空間の構築などについて事例も参照できるものとなっています。

シンポジウム

2017年10月17日にシンポジウム「CITL Institute 2017」を開催しました。アメリカ合衆国ジョージア工科大学のCenter for 21st Century UniversitiesのディレクターであるDr. Stephen Harmon氏をお招きし、基調講演として「Trends in Higher Education in the US and Georgia Tech Response」(アメリカの高等教育の動向とジョージア工科大の対応)を開催しました。さらに、シンポジウムの横断的テーマとして、「21世紀の大学像と学生の学び」をテーマに21世紀の大学像とは何か、またそこでの学生の学びはどう変化する



どう支援できるのかについてアメリカ先進事例や本学での取り組みから、学内外の高等教育関係者ら100名あまりの参加者とともに、教授学習支援方策の議論を行いました。

海外訪問、調査等

●スペイン

バレンシア工科大学(2017年6月)
同大学のMOOC等の開発を行う部署を訪問し、効率的な動画コンテンツの制作に関わるテクノロジーやチーム体制について調査しました。この訪問をきっかけに2018年3月に同大学とCITLの間で部局間協定を締結しました。

●アメリカ合衆国

カリフォルニア工科大学(2018年3月)
かねてから交流のある、Caltech Center for Teaching, Learning & Outreachに訪問し、カリフォルニア工科大学におけるアクティブラーニング型授業、空間設計に関する意見交換を行いました。

●アメリカ合衆国

カリフォルニア州立大学バークレー校(2018年3月)
部局間協定の締結先である、Center for Teaching and LearningとEducational Technology Serviceに訪問し、今日的課題や、お互いの取り組みの進捗などの情報交換を行いました。

OEDO Online Education Development Office

教職員と学生の協働によるMOOC(大規模公開オンライン講座)の開発で、世界中の受講者に向けて発信しています。さらに、本学の授業でも反転学習教材として活用しています。

オンライン教育開発室

教育改革の一環として、オンライン学習環境を整備し、充実した学習の機会を増やすことを目的として、2014年12月にオンライン教育開発室(OEDO: Online Education Development Office)が設置されました。OEDOでは、インターネット上で誰もが受講可能なMOOC(大規模公開オンライン講座: Massive Open Online Course)を開発し、学内外に向けて公開しています。また、OEDOではMOOCの開発にあたり必要となる教材設計から撮影、編集、講座配信用のウェブサイト構築、教材の英語化や著作権処理など、教員向けに様々な支援を行っています。



教職員と学生の協働によるMOOC開発

国内外の他大学に先駆けて、OEDOでは教職員と学生との協働によるMOOCの開発をすすめています。オンライン講座を提供する本学教員とOEDO教職員だけでなく、多くの学生がティーチングアシスタント(TA)として、教材設計や授業映像の撮影、編集、講座公開のためのウェブサイト構築、さらには講座運営まで、様々な過程に積極的に関わっています。OEDOの立ち上げから延べ90名の大学院生、学部生(留学生を含む)がTAとしてオンライン講座の開発に関わっています。(2018年3月現在)



南3号館OEDO オフィスでは、学生と教員の教職協働によってコンテンツ開発を行っています。

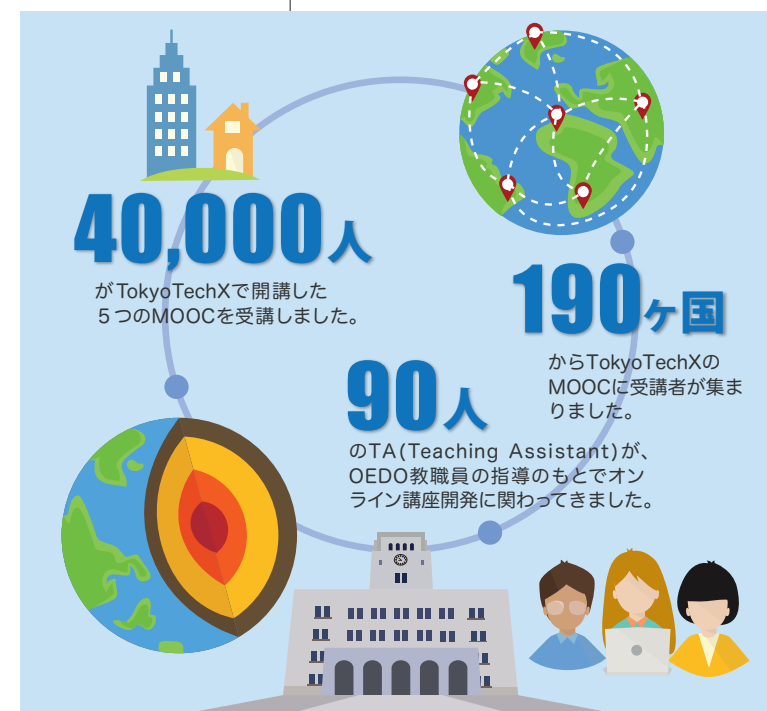


MOOCの開講

MITとハーバード大学が共同設立したMOOC配信プラットフォーム「edX」から、世界に向けて本学の授業を配信しています。2018年3月までに5つのMOOCを開発、公開し、世界190カ国から40,000人を超える受講者が集まっています。受講者は、講義映像を視聴し、確認テストやレポート課題に合格すると修了証明書を取得することができます。また、これらのMOOCは学内の授業でも一部教材として利用されています。



OEDOに関する3つの数字





開講中のMOOC (2018年3月時点)

Introduction to Deep Earth Science (講師：廣瀬敬ELSI所長)

Modern Japanese Architecture (安田幸一教授、David Stewart 特任教授)

Introduction to Electrical and Electronic Engineering / 電気電子工学入門 (千葉明教授、松澤昭教授、宮島晋介准教授、小寺哲夫准教授 ほか)

Ethics in Engineering / 科学技術倫理 (札野順教授)

Autophagy: Research Behind the 2016 Nobel Prize in Physiology or Medicine (大隅良典栄誉教授、中戸川仁准教授、Alexander May 特任助教)



よりよいMOOCの 開発のために

学生向けにMOOC開発に関連する授業科目を

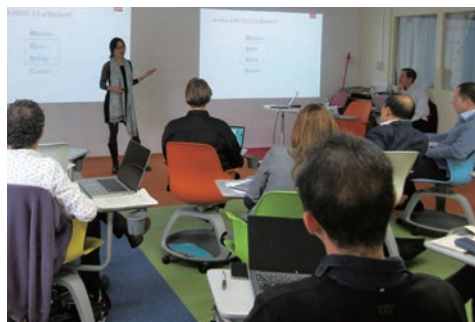


コンテンツ開発の専門家を目指したワークショップ、セミナーなどを開催しています。



ワークショップの様子

開講しているほか、学生TA向けに教材設計や映像撮影・編集に関する研修を定期的に開催しています。学内外の教職員を対象にMOOCへの理解を深めるための各種イベント「Tokyo Tech MOOC Forum 2017 (2017年3月開催)」「Tokyo Tech MOOC 2.0 Workshop (2018年3月開催)」も行っています。また、よりよいMOOCの開発と提供を目的にMOOCに関連する研究もすすめています。2017年度はMOOCのためのキャラクター開発、受講者の学習離脱予測モデル検討、スプレッドシートによる簡易コース開発などの研究を実施し、関連する学会での発表を行いました。



東工大教育賞を受賞

MOOCの立ち上げや教職員と学生との協働でのMOOC開発など、オンライン教育開発室の活動は、「MOOC(大規模公開オンライン講座)による新しいオンライン教育の展開」として平成28年度東工大教育賞優秀賞を受賞しました。



GSA

教職員と学生ならびに学生間の 協働による学びのコミュニティシステムの確立

CITLでは、リベラルアーツ研究教育院と協働で、従来のTA (Teaching Assistant) 制度とは異なる、GSA (Graduate Student Assistant) 制度を開発、実践しています。

はじめに

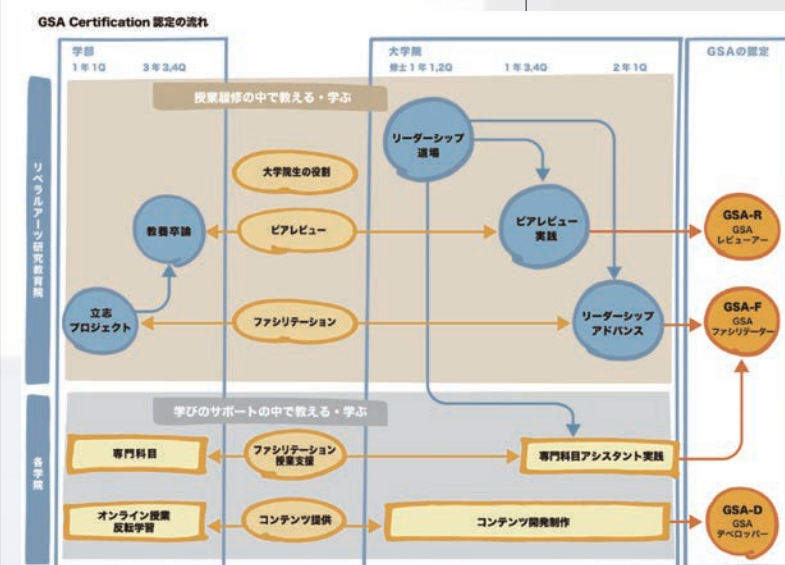
世界のトップユニバーシティでは、大学院生が学士課程の教育活動に携わることで、大学院生自らがより深く学び、学習意欲の増進やリーダーシップ育成へとつながる教育システムが既に実現されています。学習サポートを受ける学部学生への効果も大きく、自律的に相互に学び合う環境が構築されています。本取組では、大学院生および学部学生が学びのコミュニティを作り、自律的に相互に学び合う全学規模の学習環境を構築することを目指しています。

取組内容

教員と協働して学部学生の学習支援やオンラインコンテンツの開発・運営を行う大学院生アシスタントGSA (Graduate Student Assistant) を育成します。GSAの知識や能力は、大学院にて開講する授業あるいは授業外に開催するワークショップ等により身につけさせます。そして、GSA candidateとして学習支援等の実践を行います。GSAには、身につけるスキルに応じて、GSA-F (ファシリテータ)、GSA-R (レビューア)、GSA-D (ディベロッパー) の3種類があります。GSAとしての十分な知識とスキルをもち、実践



図① GSAを育成するための授業科目とその実施に関する概要図



を修了すると、教育革新センターより認定証が授与されます。

GSAを育成するための授業科目とその実施に関する概要図を図①に示します。

GSA-F、GSA-Rの育成と実践はリベラルアーツ研究教育院が開講する大学院授業(文系教養科目)の中で行います。修士1年の「リーダーシップ道場」は、よりよいチームビルディングをするための知識やスキルを身につけさせるサーバント型リーダーシップ教育を行います。この科目はGSAの基礎科目という位置づけとなり、GSA-FやGSA-Rを取得するためには、この授業を好成績で修了しなければなりません。平成29年度は12クラスが開講され、約700名の大学院生が履修しました。

GSA-Fは、大学院科目「リーダーシップアドバンス」において、学部1年生第1クォータの必修科目「東工大立志プロジェクト」の少人数クラスに、ファシリテータとして関与します。GSA candidateと学部学生が授業の中で有機的に関わりながら、相互に学びを深めていきます。平成29年度は、12名にGSA-Fの認定証を授与しました。

GSA-Rは、大学院科目「ピアレビュー実践」において活動を進めます。H30年度から本格的に始まる学士課程3年生向けの必修授業「教養卒論」において、学部学生の教養卒論をピアレビューする活動を実践します。平成29年度は、「教養卒論」に相当する模擬授業を実施し、GSA candidateの実践活動を実施しました。その結果、40名にGSA-Rの認定証を授与しました。

GSA-Dは、大学院の専門科目やワークショップをとおり、オンラインコース等に活用する教材メディア・教材コンテンツ制作する知識やスキルを身につけます。その後、OEDO部門と連携しながらMOOCのオンライン教材の開発および授業運営の補助を担います。平成29年度は、8名にGSA-Dの認定証を授与しました。

LPG

学生が自ら進んで学べるプラットフォームの構築による教育改革の更なる推進

ーオンラインによる自学自修環境と自身の学修マネジメントをつなぐー

取組目的

本学の教育目標である「世界に飛翔する気概と人間力を備え、科学・技術を俯瞰できる優れた人材の輩出」には、学生が自らの学習に能動的に関わる態度や姿勢、スキルを身につけ、自律した学修者である必要があります。その戦略の1つとして、教職員が積極的にオンライン学習コンテンツを活用し、学生が授業外でも効果的かつ効率的に学修できる環境の構築が必要不可欠です。本取組では、1) 動画コンテンツを中心としたオンライン学習環境を構築し、2) 教学に関わる諸データから質向上の度合いを客観的かつ継続的に評価して学生の修学上の意思決定場面(アカデミックブランチ)での選択を支援するシステムの構築の2つの目標としています。

取組内容

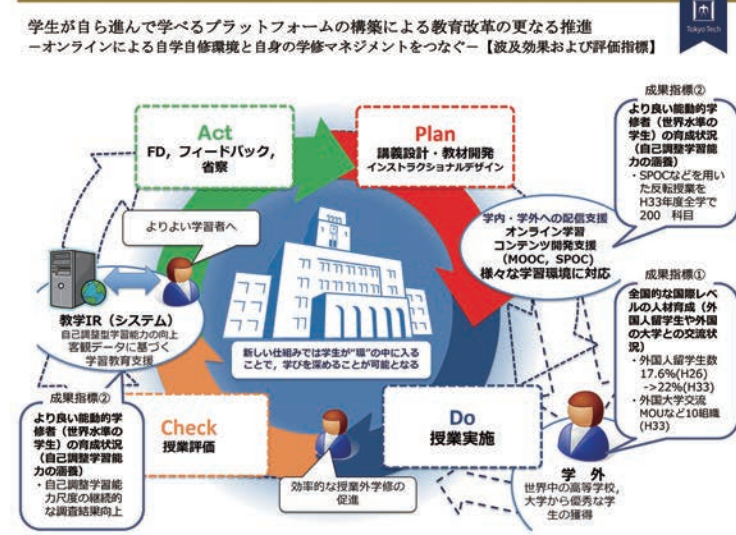
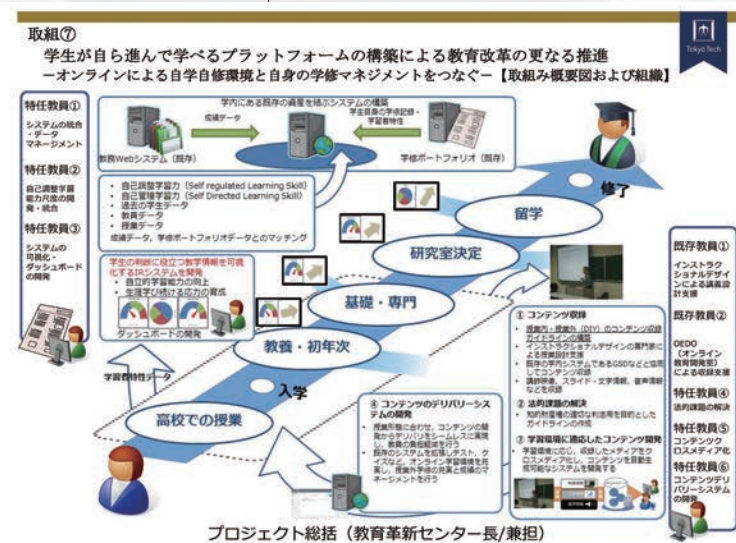
学生が自身の学習に能動的に関わる態度や姿勢、スキル(自己調整学習)の度合いを測定するための質問紙調査を毎年実施します。そのデータをもとに学生間の比較や、経年変化を見ることで学生の成長の度合いを評価し、後述する学生へのフィードバックや教育実践の改善に活用します。

学生が授業外で自学自習を促すオンライン学習環境を構築します。本取組では特に教員による講義等の動画コンテンツの活用には焦点化し、パソコンだけでなくスマートフォンなどのモバイル端末でも学習できるシステムを構築します。また、オンライン学習環境での学習行動の詳細な履歴を記録する詳細ログ機能を実装します。

広報・社会連携本部情報活用IR室と連携し、上記の学生の自己調整学習や学習行動履歴、その他の教学に関わるデータを統合した教学IRシステムを構築します。また、その評価から得た知見をもとに、自立した学修者への成長を促すデータの可視化やフィードバックを学生に

提供する機能を実装します。

本学の教職員がオンライン学習環境や動画コンテンツを教育実践に活用していくための教員専門能力開発(ファカルティ・ディベロップメント)を行います。具体的には、動画の制作方法や、SPOCや反転授業など教育実践での活用方法、コンテンツの著作権に関わる法的課題・解決方法等を学ぶための教員向けセミナーを定期的の実施します。



DIY(Do It Yourself)スタジオの設置と支援

CITLでは、OEDOが管理運営するMOOC(Massive Open Online Course)開発に適した本格的なスタジオのほかに、教員が一人でも手間を掛けずにSPOC(Small Private Online Course)や反転授業のためのコンテンツ開発を行うことができるスタジオの設置に取り組んでいます。CITLでは、既存の部屋をこのようなDIY(Do It Yourself)スタジオとして2部屋改修を行いました。このDIYスタジオでは、システム構成は統一して設計してありますが、授業内容や、学習目標、提示資料などによって、高度な収録機材から簡易的なものまでニーズに合わせて選択できるようにしています。

また、DIYのスタジオ活用方法やコンテンツ開発方法に関する講習会の開催、録機材の貸し出しなど、コンテンツ開発のための支援活動も行っています。

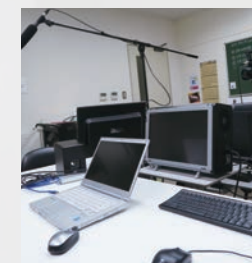
DIYスタジオの構成

■西9号館-828スタジオ
(高度なDIY収録に対応)

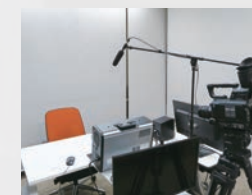
- 目的に応じて、背景画像と人物を、一台のカメラと周辺機材で合成し収録する、天気予報で使われるような映像(クロマキー合成)や、一つの画面の中に小さく別の画面を設け、それによって同時に2つの画面を表示させる映像(ピクチャー・イン・ピクチャー)による収録が可能です。
- 機材は、簡単な操作で使えるよう、あらかじめ調整されており、簡単な取り扱い説明を受けただけでDIYで撮影することが可能です。
- 希望により複雑な収録を行う場合などは、技術スタッフがお手伝いする場合があります。
- 機材の切り替え操作等のため、複数人での収録を推奨します。



西9号館-828スタジオ



DIYスタジオ機材



DIYスタジオ



Canon XA30



Canon HF R62

DIYによるコンテンツ制作支援

CITLでは、学生が授業外でも効果的かつ効率的に学修できるよう、SPOC(Small Private Online Course)や、反転授業のコンテンツを教員が容易に開発できる環境の構築及び支援体制作りを進めています。

■西9号館 214号室スタジオ
(簡易なDIY収録に対応)

- スクリーン動画キャプチャ、編集ソフトのCamtasia Studio(Techsmith社製)がインストールされたパソコンと、カメラ映像やスライドなどを同時に取り込み、複数の様々な動画ファイル形式で一括出力することができる講義収録・動画コンテンツ作成システムであるCbox(フォトロン社製)などの設備があります。これらの機材は簡単な動画編集や、スライドと音声で構成されたシンプルな動画などの開発に適しています。
- Camtasia Studioを使う場合、同じソフトを研究室等のパソコンにインストールしておくことで、動画の一部をスタジオで撮影し、研究室等で、編集等の作業をすることも可能です。

支援の内容(講習会やワークショップなど)

DIYによるコンテンツ開発を支援するために、機器の利用法や、SPOCや反転授業に対応した動画教材開発のための講習会(ワークショップ)などを実施する予定です。DIYスタジオ機材の操作方法Camtasia studioやCboxを用いた収録方法編集作業などのワークショップを検討しています。また、インストラクショナルデザイン原理に基づいた、オンライン学習教材のデザイン方法(教材設計、機材や資料の選び方)などを予定しています。

撮影機材等様々なツールの貸し出し

CITLでは、ほかにも映像撮影機材の貸し出しなどを行っています。

■撮影機材の貸し出し

研究室や講義室での収録、講演会などの収録に対応した撮影機材の貸し出しを行っています。

●貸し出し機材の一例

ビデオカメラ、三脚、ピンマイク、各種延長ケーブルなど

Fact Data 2017

■FD研修

科目設計法	
第1回	10/24 (火)
第2回	11/17 (金)
第3回	12/21 (月)
第4回	1/18 (木)
第5回	2/7 (水) (すずかけ台)

アティブラーニングで授業を行う技術	
第1回	10/24 (火)
第2回	11/17 (金)
第3回	12/11 (月)
第4回	1/18 (木)
第5回	2/7 (水) (すずかけ台)

初めて授業を担当する教員のためのセミナー	
第1回	10/20 (金)
第2回	11/7 (火)
第3回	12/7 (木)
第4回	1/22 (月)

Basic Classroom English セミナー	
第1回	10/27 (金)
第2回	11/13 (月)
第3回	12/14 (木)
第4回	1/16 (火)

英語で授業を行う技術	
シラバスライティング	11/14 (火)
講義とプレゼンテーション	11/21 (火)
発音とGlobal Enlishes	12/5 (火)
シラバスライティング	12/8 (金)
講義とプレゼンテーション	12/8 (金)
ATE (Academic Teaching Excellence)	3/19 (月)～3/20 (火)

動画を活用した授業(科目)設計セミナー	
第1回	11/21 (火)
第2回	11/28 (火)
第3回	12/4 (月)
第4回	12/8 (金)
第5回	2/7 (水) (すずかけ台)

■職員対象

学務系職員セミナー	
第1回	11/14 (火)
第2回	12/18 (月)

■学生対象

10/18 (水)	日本語ライティングセミナー
1/17 (水)	English for the Classroom Seminar
1/24 (水)	Writing in English Seminar

■部局間協定

スペイン	バレンシア工科大学	2018年3月
日本	九州工業大学	2017年11月
アメリカ合衆国	カリフォルニア州立大学バークレー校	2016年6月

■学会等発表

〈日本教育工学会〉
第33回全国大会

於：島根大学

2017年9月15日～18日

- ・東京工業大学「学びの7か条」の策定過程
-教職協働による教学支援の取組み-
渡辺 雄貴、大地 奈穂子、植松 明彦、田中 岳
- ・MOOCにおけるキャラクターを活用した教材開発の試み
立木 瞳、森 秀樹、CROSS, Jeffrey Scott
- ・Development of Open edX Course Content Modification Tool for English-to-Japanese Text Replacement
KEERATIVORANAN, Nopphon, MA'RUF, Muhammad Amar, GOTO, Saya, CROSS, Jeffrey Scott

〈大学ICT推進協議会〉

2017年度年次大会

於：広島国際会議場

2015年12月13日～15日

- ・学生が自ら進んで学べるプラットフォームの構築
～教学IRによる学生の学習状況把握と意思決定支援～
大石 哲也、大浦 弘樹、渡辺 雄貴

〈国際フォーラム〉

大学におけるティーチング・アシスタント(TA)制度改革の挑戦
～大学・院教育の充実にむけて～

於：広島大学

2018年2月27日

- ・大学院生アシスタントを中心とした学びのコミュニティシステム
室田真男

〈第24回大学教育研究フォーラム〉

於：京都大学

2018年3月20日～21日

- ・学生の自己調整学習を高めるプラットフォームの構築
大浦 弘樹、大石 哲也、渡辺 雄貴
- ・学びのコミュニティシステムにおける大学院生アシスタントによるピアレビュー実践
室田真男、林直亨、小泉勇人、鈴木悠太、佐久間邦弘



■教育革新センター 所属教職員(2018年3月現在)

センター長	松澤 昭	教授	工学院
副センター長	田中 岳	教授	教育革新センター
	篠崎 和夫	教授	物質理工学院
専任教員	森 秀樹	准教授	教育革新センター
	渡辺 雄貴	准教授	教育革新センター
	大浦 弘樹	特任准教授	教育革新センター
兼務教員	松澤 昭	教授	工学院
	篠崎 和夫	教授	物質理工学院
	CROSS JEFFREY SCOTT	教授	環境・社会理工学院
	室田 真男	教授	リベラルアーツ研究教育院
協力教員	西原 明法	特任教授	工系人材養成機構(HAPPIER)
技術職員	吉原 祐貴	技術職員	安全管理・放射線部門
	立木 瞳	技術職員	技術部情報基盤支援部門
事務職員	江尻 佳代	教務課専門職(教育革新事業担当)	
事務担当	森山 倫子	事務支援員	教育革新センター
	先名 活子	事務支援員	教育革新センター
	川井 ひろ子	事務支援員	教育革新センター
	渡部 由香	事務支援員	教育革新センター



発行：2018年3月